

事業名：稲作コスト低減に向けた農業技術実証事業 (令和8年度：新規)

背景

県の稲作を取り巻く環境は、農業者の高齢化による生産者の減少、担い手の大規模化に伴う作業負担の増加、燃料・資材費の高騰、干ばつ・高温などの気候変動による収量・品質の低下など非常に厳しい状況である。

このような中、持続可能な稲作経営を図るためには、低コスト生産、作業の省力化、気候変動に対応した栽培の技術が必要である。

目的

持続可能な稲作経営を図るためには、低コスト生産、作業の省力化、気候変動に対応した栽培技術の導入を図ることが必要で、研究所内や現地において、実証試験等を行い、本県の稲作経営への適応性を評価する。

取組内容

1. 節水型乾田直播種の適応性評価事業 (7,750千円)

作業の省力化、気候変動、生産拡大に対応した栽培技術と期待される節水型乾田直播栽培技術について、本県の稲作経営への適応性を評価するため、研究所内での検証試験と生産現場での実証試験を実施し、課題の整理とその対策の検討、また、省力性や適した品種・資材（バイオスティミュラント）等々を評価する。

※バイオスティミュラントは、植物や土壌により良い生理状態をもたらす様々な物質や微生物のことである。節水型乾田直播では、田の給水量が少ないため収量確保が難しく、発芽・発根、肥料の吸収等を促進させるバイオスティミュラントを活用することにより、従来の水田栽培と同等程度の収量確保することができる重要な資材となっている。



乾田直播の播種作業の様子

2. 再生二期作の適応性評価事業 (2,174千円)

低コスト生産として期待される再生二期作技術について、本県の稲作経営への適応性を評価するため、研究所内での検証試験と生産現場での実証試験を実施し、課題の整理とその対策の検討、また、低コスト生産性や適した品種・資材等を評価する。

